

生活クラブ
2030
行動宣言

サステナビリティ
レポート

2023年度実績

サステイナブルなひと、
生活クラブ

生活クラブはSDGsの理念に先んじた、かつとどまらない活動を実行します。

「生活クラブ2030行動宣言」は11の重要目標を掲げ、持続可能な未来の実現をめざしています。本レポートでは、それぞれの目標達成に向けてどんな活動がすすめられているのか、2023年度の到達点とともに報告します。

Contents

重要目標1 …… 4	重要目標2 …… 7	重要目標3 …… 9	重要目標4 …… 11	重要目標5 …… 12	重要目標6 …… 14	重要目標7 …… 15
重要目標8 …… 16	重要目標9 …… 17	重要目標10 …… 18	重要目標11 …… 19			
数字でみる動向と推移 …… 20	2023年度 生活クラブの活動を振り返る …… 22					

【掲載内容について】

本レポートに掲載している活動やデータは、主に2023年度（2023年4月～2024年3月）の実績に基づき作成しています。それ以外の情報は、それぞれの項目内に記載しています。



Topics of 2023

重要目標 2 より健康志向の高いミールキットシリーズ「もっとピオサポ！」がデビュー



カット済みの国産野菜・肉や魚、提携生産者の調味料を使った生活クラブのミールキット「ピオサポ食材セット」から、より健康志向の高い「もっとピオサポ！」がデビュー。組合員が気になる健康テーマに沿って摂りたい栄養素を設定しています。

8
ページへ

重要目標 10 消費者と生産者の交流施設「TOCHiTO」を山形県酒田市にオープン



生活クラブと、提携産地のある山形県酒田市が連携し、「移住者の居住」+「地域と交流する場」などの機能を持った拠点「TOCHiTO(とちと)」をオープンしました。

18
ページへ

組合員が生産者と力をあわせ消費材開発！



生活クラブの組合員と提携生産者が協力し消費材を開発。生活クラブの豚肉を無駄なく使った「これ好き！スライスソーセージ/ブロックソーセージ」や、提携産地のお米でつくる冷凍おにぎり「こむすびちゃん」が誕生しました。

22
ページへ

生活クラブ行動年表

- 1965 (年度) 「生活クラブ」結成
- 1977 合成洗剤の取り扱いをやめ、せっけん利用運動を本格化
- 1986 チョルノービリ原発事故を受け、放射能の自主基準を設定
- 1990 生活クラブ連合会設立総会。協同組合運動が食の自給力向上、持続可能な循環型社会づくりのモデルとなるよう実践すると定める
- 1994 びんを再使用する「グリーンシステム」スタート
- 1997 「自主管理監査制度」スタート
「安全・健康・環境」生活クラブ原則を制定。次世代を見据え、生産から廃棄に至るすべての過程で責任をもつとする
- 2015 生活宣言(ブランド・ステイトメント)と10のThink&Act決定
- 2016 2014年に設立した㈱生活クラブエナジーを通じて再生可能エネルギーによる電気の共同購入スタート
「生活クラブの福祉・たすけあい8原則」を決定
- 2018 「生活クラブの消費材10原則」を決定。自主管理監査制度を「持続可能な生産と消費」推進制度へリニューアル
- 2020 「生活クラブ2030行動宣言」を決議
「気候危機宣言」を発表
- 2022 「生活クラブ2030行動宣言」の重要目標を11に増やし決議
「つながるローカルSDGs」をテーマにしたしくみづくりをスタート
「エネルギー事業連合」を設立
- 2023 庄内地域の「ローカルSDGs」の取組みが第10回環境省グッドライフアワードで環境大臣賞 優秀賞を受賞

「生活クラブ2030行動宣言」
について詳しくはこちら ▶

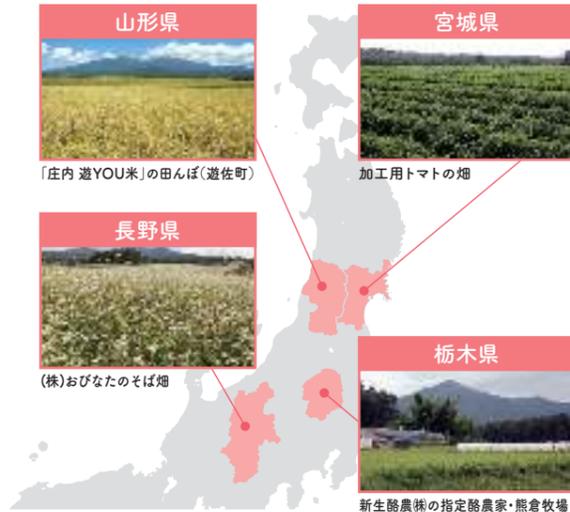


1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

持続可能な地域づくりをとともにすすめる

生産者とともに国内自給力アップをめざす

家庭で消費する基本の食材であり、さまざまな加工品の原料にもなる一次産品*をつくり、食べ続けていけるように、提携生産者とともに国内自給力のアップをめざしています。「共同開発米*」をつくる山形、長野、栃木、宮城の4つの主産地を中心に各産地と地域を含めたつながりを持ち、地域の活性化など食だけにとどまらないチャレンジもしています。



予約でサステイナブルな生産と消費を応援

生活クラブの注文方法の一つに、組合員が予約した消費材*を定期的に届けられる「よやくらぶ」があります。毎週の注文をサポートする便利なくみです。米、牛乳、鶏卵、青果物の「ビジョンフード*よやくらぶ」は、予約することで組合員の継続的な利用が見込め、生産者が生産計画を立てやすくなることから、持続的な生産と消費を支える力になっています。

■ビジョンフードよやくらぶの予約率*



※予約できる消費材は地域によって異なります。青果物の予約は2022年度から8単協、7地域でスタートしました。
※2023年度は青果物の予約に、新たにバナナが加わりました。



命の産業である第一次産業において、種に至るまでの国内自給を追求し、生産情報の開示をすすめます。また、国内外を問わず、生産に従事する人々の人権に配慮し、合意に基づく調達を行ないます。



種からの生産と出荷、国内自給を追求

国内で自給できる種の維持と開発

鶏肉・鶏卵の「国産鶏種」の生産と拡大に取り組み、輸入に頼らない種の自給にチャレンジしています。国内で食べられている鶏や卵を産む鶏のほとんどは、親鶏を外国から輸入して育てたもの。国内で種の自給が可能になると、日本の気候風土にあった形質や国内の嗜好にあったものに育種改良しやすくなります。

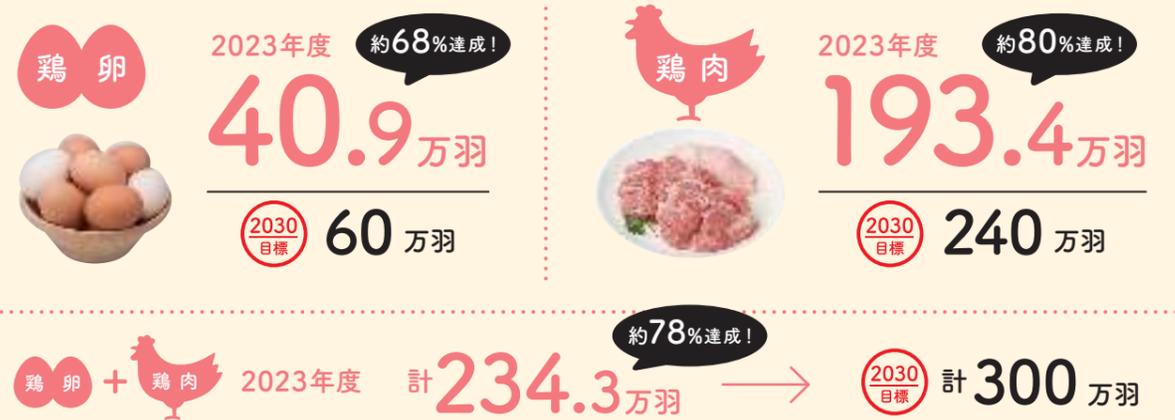


日本の食料自給率と生活クラブの国産原料の取組みがわかるプロジェクト「まかない亭」のWEBサイトはこちらから



2023年度の実績と2030年目標

■国内で育種し、改良した「国産鶏種」の飼育数



さらに 畜産飼料も国産に

国内で飼育されている豚や鶏、牛などの飼料の7割以上を、輸入に頼っているのが現状です。生活クラブでは飼料も国産化をめざし、飼料用米の給餌拡大や、子実とうもろこしなど飼料用作物の拡大にも取り組んでいます。



2021年度の実績で、当初に2030年目標としていた飼料の自給率35%(重量ベース)をクリアしました。今後目標の引き上げについて検討します。

重要目標 1 食料主権の考え方を基軸とした、国内生産の追求と、公正な調達を行ないます。

互いを理解する機会をつくり提携関係を深める

組合員と提携生産者が互いの声を聞き、現場を知ることを中心に、さまざまな交流の機会をつくっています。組合員が産地を訪れ消費材の生産について学ぶ「生産者交流会」をはじめ、生産者を各地の生活クラブに迎える「消費地交流会」や「学習会」も開催。加工用トマトの定植や収穫にも組合員が参加しています。また、オンラインも活用し交流の幅を広げています。



庄内交流会

毎年開催している、各地の組合員が山形県庄内地域を訪れる一大交流会。数日間かけて米や青果、加工品などの生産者と交流します



消費地交流会

生産者が組合員のもとを訪れ、学習会や料理講習会などを開催。消費者の声を直に聞き、消費材に活かす機会になっています



計画的労働参加

トマトジュースの原料に使用される、加工用トマトの定植と収穫に組合員も参加しています

2023年度の実績と2030年目標

■生産者との交流会や産地見学会などの参加人数

2023年度

447,833人/年

2030目標

500,000人/年

海外の生産者とのつながり

国内で生産が困難な食品は、海外から輸入しています。海外産品であっても、消費材としての扱いは国産と同じです。海を越えて顔の見える関係を築き、組合員と生産者が互いに豊かになる提携をめざしています。



「国産ブレンドなたね油」にはオーストラリア産のNon-GMナタネが使われています。生産者の元を組合員が訪れて視察と交流を行ないました

生産から消費に至るまでの情報を開示

取り扱っている農産物や畜産物について、「いつ・誰が・どこで・どのように」を確認できるように、情報を組合員に開示しています。

■農産物や畜産物の生産計画・生産履歴の開示 **100%**

たとえばこんな取り組みもしています

- ・水産物を使った消費材の一部に「MSC認証[※]」の輸入原料を使用
- ・「洗濯用粒状せっけん」などの原料の脂肪酸の一部をパーム油由来から廃食用油由来のものに変更
- ・マーガリン類3品目と原材料に使用する加工食品28品目のパーム油を「RSPO[※]」に認証された原料に変更

リニューアルしたせっけんについて詳しくはこちら▼



■MSC認証の原料を使用した消費材の注文数量 **135万4,252点**

新たな取り組み 食品ロスを削減するために

生活クラブでは、消費材のこれまでの賞味期限を新たに見直しています。保存期間の長さによる食味や品質の変化を検査し、問題がないと確認できたものについては、賞味期限をさらに延長しています。

■賞味期限を延長した品目数 **約37%達成!**

累積品目数 **219品目**
2020~2023年度

2030目標 **600品目**

重要目標

2

素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。



必要のない添加物や薬剤の使用を限りなく削減し、健康を保つことに貢献する食材の使い方や摂り方などの情報を積極的に共有します。

化学合成農薬や抗菌性物質(抗生物質・合成抗菌剤)などの使用を削減

農薬をできる限り減らした野菜の取組み

生活クラブの野菜はすべて、「アースメイド野菜」と名づけています。生産者と一緒に土づくりからはじめ、「いつ・誰が・どこで」のようにつくったか栽培履歴をすべて明らかにすることを基本としています。そのなかでも「あっぱれ育ち」、「はればれ育ち」の野菜は、化学合成農薬や化学肥料はできるだけ使わず、独自の基準のもと徹底した品質管理で届けています。



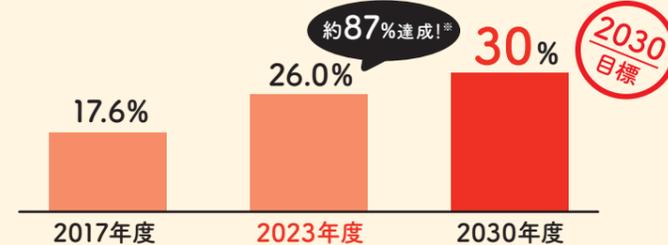
アースメイド野菜のロゴマーク

※「アースメイド野菜」は関西地方を除く生活クラブの青果物の規格です。関西地方の生活クラブでは、自主基準に沿った独自の規格で青果物の共同購入を行なっています。



2023年度の実績と2030年目標

■「あっぱれ育ち」「はればれ育ち」野菜の供給比率の推移



※目標の供給比率30%に対する達成度。



あっぱれ育ち
栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料を使用しないで育てました。



はればれ育ち
栽培期間中、化学合成農薬と化学肥料をできるだけ使わず育てました。

さらに 薬に頼らず健康第一に牛・豚・鶏を育成

生活クラブが提携する畜産生産者は、牛や豚、鶏がのびのびとストレスなく過ごせる環境を整え、健康第一に育てています。そうすることで家畜が病気にかかりにくくなり、抗菌性物質に頼らない飼育が実現できています(病気の治療をのぞく)。



牛

3,344頭



豚

84,910頭



鶏(肉用)

1,934,195羽

※2023年度実績

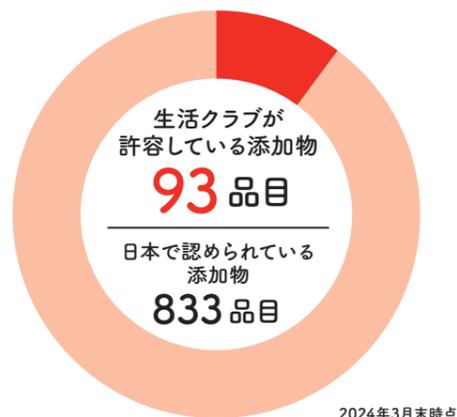
重要目標 2 素材本来の味、食材にまつわる知恵や文化を大切にして、健康で豊かな食の実現をはかります。

素材のよさを活かし不要な食品添加物を使わない消費材づくり

必要のない食品添加物は不使用に

食品添加物に対する基本的な考え方は、「疑わしいものは使用しない」「不要なものを使用しない」「使用したものはすべて開示する」です。現在、日本で使用が認められている食品添加物は833品目。生活クラブではその約1/10のみを許容し、使用する用途も限定しています。

■許容食品添加物



2024年3月末時点

※日本で使用が認められている食品添加物には、「指定添加物」「既存添加物」「天然香料」「一般飲食物添加物」があります。上記の833品目と93品目（表示義務のない添加物及び粉ミルクの栄養素は除く）は、「指定添加物」「既存添加物」のことを指します。

2023年度の実績と2030年目標

■自主基準に沿って、必要のない食品添加物を使わずにつくった消費材の累積数

2023年度 **約83%達成!**
3,395 品目

2030目標 **4,097** 品目



ミールキットや誰もが食べやすい食品の開発

安全性に配慮した食品を使い、栄養バランスのとれた食べ方を組合員に提案しています。また、食材が持つ栄養を活かした消費材や、伝統的な製法や調理方法でつくった消費材の開発もすすめています。

バイオサポ*食材セット

消費材や国産野菜、提携生産者の調味料を使った、生活クラブのミールキット。



美食百彩*

ライフステージの変化に対応し、あらゆる世代の健康をサポートする消費材シリーズ。



健康づくりに役立つ食の情報を発信

バイオサポ活動を組合員が理解し日々役に立つために、各地域で学習会を開催。献立づくりの知識を伝える講座や、子育て支援講座、シニアの健康維持について伝える講座などもあります。



2023年度の実績と2030年目標

■バイオサポ講座の開催数

2023年度 **約41%達成!**
33 回
2030目標 **80** 回

■バイオサポ講座の参加人数

2023年度 **約30%達成!**
474 人
2030目標 **1,600** 人

2023年度の実績と2030年目標

■バイオサポ食材セットと美食百彩の累積品目数

2023年度 **約51%達成!**
329 品目 → 2030目標 **644** 品目

* バイオサポ

「バイオサポ」とは、生命を意味する「BIO」と「美」を掛け、生命力にあふれた健康な食生活をサポートしていく、という意味の造語。食の安全性のみならず、健康な体づくりのために欠かせない栄養バランスのよい「食べ方」についても情報を発信しています。

* 美食百彩

大人から子どもまで、あらゆる世代の健康な毎日の食卓をサポートする消費材シリーズです。

重要目標

3

地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候危機対策に取り組みます。



生物多様性をおびやかす遺伝子操作を行なった食物を扱わないことを基本とし、その生産に反対します。また、生産・流通・消費・廃棄の各段階での環境配慮とともに、重点的に温室効果ガスの削減に取り組みます。

容器包装ごみを減らし資源を循環できる社会をつくる

繰り返し使えるリユースびんで環境負荷を減らす

家庭から出るごみの容積の約60%が容器や包材です。生活クラブでは、なるべくごみを出さず環境負荷を減らすために、調味料やジュースなどの容器を数種類のリユースびんに統一し、回収して再使用しています。繰り返し使うことで、エネルギー消費量やCO₂の排出量も減らすことができます。生活クラブではこうした取組みを「グリーンシステム*」と名付けて、組合員活動としてすすめています。



※Garbage Reduction for Ecology and Earth's Necessity (地球生態系のためのごみ減量)の頭文字GREENから名づけられています。

2023年度の実績と2030年目標

■調味料やジュースなどの容器に使われているR(あ〜る)びんの回収率

2023年度 **約97%達成!**
77.7%
2030目標 **80%**

Rびん…日本ガラスびん協会が、規格を統一したリユースびんと認証したびんのこと。

新たな取組み

防災用飲料水のラベルをなくしてプラ削減

災害時の回転備蓄として取り組む「防災用飲料水」は、持ち運びやすさや衛生面、長期保存のしやすさから、消費材で唯一ペットボトルに詰められています。一方で現在、各飲料メーカーでは環境に配慮して、ペットボトルのプラスチックラベルをなくす動きがすすんでいます。組合員からも要望があったことから、製造元の協力を得て、2024年4月からラベルレスに対応*1。防災用飲料水がラベルレスになることで、年間約5.4tのプラスチックを削減できる見込みです。*2

※1 生活クラブのお店「デポー」では、ラベル表示を付けない店頭販売ができないため、従来のラベル付きのものを取り扱います。
※2 2023年度の供給実績より算出。



対象プラスチックの総使用量削減

2030目標 **25%**削減

「再生プラ」と「植物由来プラ」の使用率引き上げ

2030目標 **50%**



重要目標 3 地球の生態系を維持するため、海や陸の環境保全と気候危機対策に取り組みます。

生活クラブグループのCO₂排出量を削減

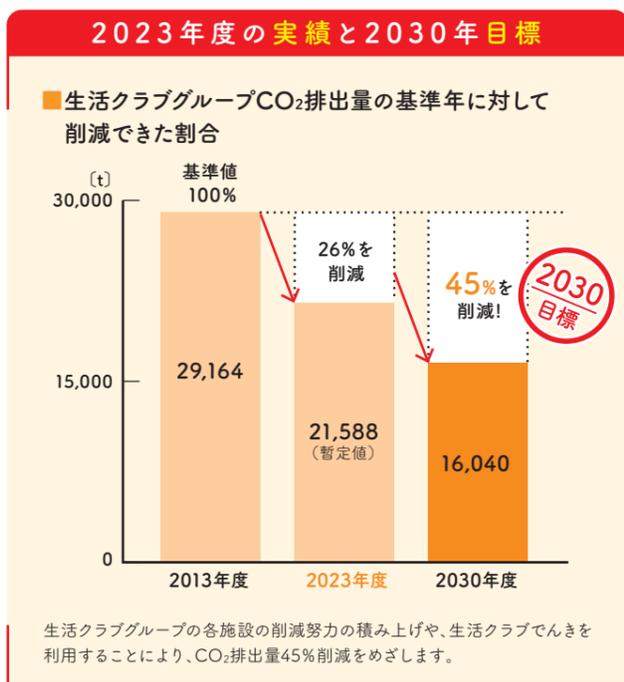
CO₂排出を2050年までに限りなくゼロに

地球を過熱化する温室効果ガスの排出削減を、生活クラブグループ全体で取り組んでいます。2030年までにCO₂の排出量を45%削減（2013年比）、2050年には限りなくゼロにすることをめざしています。

2023年度 生活クラブグループのCO₂削減量



※2013年を基準として、2023年のCO₂削減量を容積で表すと東京ドーム約3個分。
※基礎排出係数を使用した排出量で計算しています。
調整後排出係数を使用した場合の2023年度排出量は30,605t-CO₂になります。



日々の暮らしの選択で環境や生態系を守る

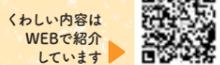
合成洗剤は扱いません

せっけんの利用をすすめ、合成界面活性剤でつくられる合成洗剤は扱いません。2022年7月からは、「洗濯用粒状せっけん」など3品目の原料の脂肪酸の一部をパーム油由来のものから廃食用油由来のものに変更し、より環境と人権に配慮した原料規格に置き換えました。さらに包材のプラ削減にも取り組んでいます。



【生活クラブ×日本大学芸術学部】産学連携プロジェクト

生活クラブは2023年、日本大学芸術学部と連携。学生が産地を訪れて取材し、水を守るための取組みや、環境にやさしいせっけんの魅力などについて、独自の表現で発信しました。



詳しい内容はWEBで紹介しています

2023年度の実績と2030年目標

■主要なせっけん類(洗濯用・台所用・固型せっけん)の取組人数

37,129人

約37%達成!

2030目標 100,000人

※生活クラブ北海道・関西を除く。 ※2023年7月度実績。

■主要なせっけん類の取組人員率

14.0%

約56%達成!

2030目標 25%

遺伝子操作を行なった食物は扱いません

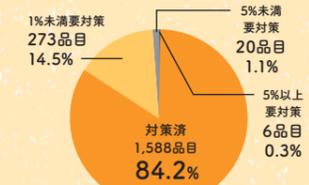
生活クラブでは「疑わしいものは使わない」という考えから、遺伝子組み換え作物*・食品は取り扱わないことを基本に、その生産にも反対しています。提携生産者と協力し食品の原材料、畜産物の飼料からも遺伝子組み換え作物を取り除いています。同様に、ゲノム編集*された原材料も認めません。

■Non-GM飼料*の使用量

2022年度実績 **37,777t**

※遺伝子組み換えの混入を防ぐために分別した飼料の使用量。

■GM対策済消費材の割合



* 遺伝子組み換え作物(GM作物/GMO)
ある特定の性質をつくるために、微生物などの生物の遺伝子の一部を切り取って、自身の遺伝子に組み込み操作がおこなわれた作物のことです。(GMO:genetically modified organism)

* ゲノム編集食品
特定の遺伝子を壊す「ノックアウト」と、特定の遺伝子を外部から挿入する「ノックイン」の2種類があります。

重要目標

4

社会の存続をおびやかす危機への対策をすすめ、暮らしと未来を守ります。



気候や災害などの危機への対策をすすめ、持続的な生産と消費を確かなものとし、人々の暮らしを守ります。

気候危機にも適応し、持続可能な生産への取組みをすすめる

変わりゆく気候に適した農産物の品種を探る

気候危機による影響などから、これまでと同じ方法で農作物をつくり続けることが難しくなっています。生活クラブでは夏の高温や鳥インフルエンザの脅威などに対応し、地域特性にあった鶏の育て方を模索。開放型鶏舎を基本としつつ、一部の鶏卵農場でセミウインドレス鶏舎も採用しています。また、柿や梅などを生産する奈良県の(有)王隠堂農園でも、生育に適した土地と品種の検討を始めました。



一部で採用するセミウインドレス鶏舎。強制換気により夏場の鶏のへい死リスクを防ぐ効果があるとされ、自然の風や光も入れることができます



人手不足と高齢化による課題の解決に向け、(有)王隠堂農園で行なう、傾斜地でのスマート農機の実証実験



(有)王隠堂農園では、柿の木の定点観測を行ない、気温などの変化が及ぼす影響を調査

自治体と連携して災害に備える

支援体制を整えるため自治体と協定を締結

生活クラブは、提携生産者が多くつながりも深い長野県塩尻市、山形県酒田市・遊佐町などの自治体と、災害などに備えて連携。支援体制を整えています。そのうち長野県塩尻市とは、防災用飲料水の取組みのため、水源利用で提携したことをきっかけに包括連携に関する協定を締結。災害時の生活物資の供給などをお互いに支援できるようにしました。



【山形県遊佐町】
大規模災害時に対する相互協力に関する協定を締結。生活クラブ・遊佐町・JA庄内みどりの三者が、大規模災害発生時に協力して対策にあたることを約束しました(2016年4月18日)



【山形県酒田市】
生活クラブ生活協進会、山形県酒田市、庄内みどり農業協同組合、生活協同組合庄内親生会で、相互の連携により庄内地域の持続可能な開発目標を推進し、地域社会の発展に資するため、包括連携に関する協定を締結しました(2021年12月27日)



【長野県塩尻市】
生活クラブ生活協同組合(長野)・生活クラブ生活協進会・長野県塩尻市で包括連携に関する協定を締結しました(2016年9月21日)



5

原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組めます。



再生可能エネルギーによる電力をつくり、連帯と共同購入によって選択する人や事業者を増やし、原発が必要ない社会をつくれます。



省エネルギーと再生可能エネルギーの利用をすすめる

自分たちが使う電気を自分たちでつくる

生活クラブではサステイナブルな未来をつくるため、使う電気を減らすと同時に、原発や化石燃料に頼らない社会をめざしています。そんな社会を実現するため、再生可能エネルギーを中心とした、「生活クラブでんき」の共同購入を2016年にスタート。全国約69ヶ所ある発電所の電気を、各地の生活クラブや提携生産者が出資して立ち上げた(株)生活クラブエナジーが仕入れ・需給調整を行ない、組合員の家庭や消費材をつくる工場などに届けています。

「生活クラブでんき」ならではのシステム 利益還元割戻制度

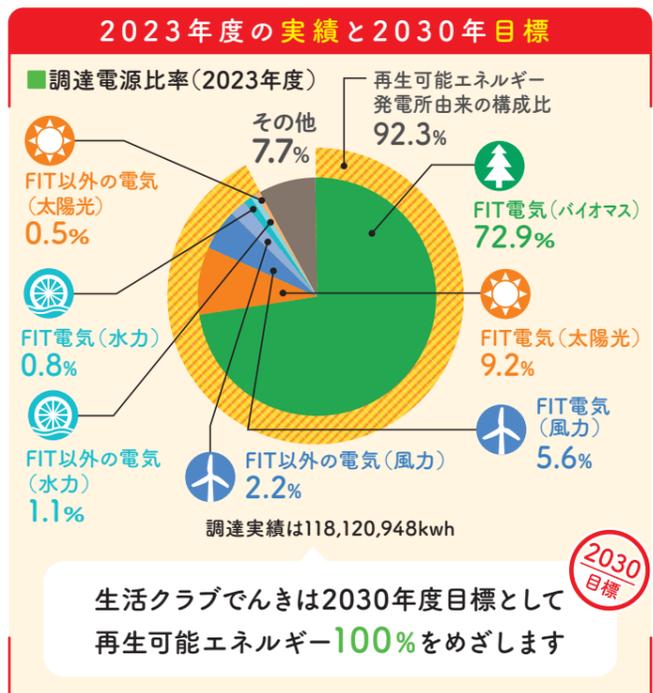
「生活クラブでんき」を継続して利用し剰余が生まれた場合は、利用者に割戻として返すことになりました。剰余が見込まれる場合に、使用された電気料金に応じて割戻による還元を翌年度に行ないます。



生活クラブでんきの発電所を増やす

新たな発電所の建設と事業者との提携

生活クラブでんきは、全国にある再生可能エネルギー発電所から電力の供給を受けています。電力の“素”となっているのは、太陽光や風力、小水力、バイオマスなど、環境負荷が少なく、横のネットワークをつくりやすい分散型のエネルギー源です。2030年までに再生可能エネルギー100%にすることを目標に、新たな発電所の建設や想いをともにする事業者との提携をすすめています。



めざす社会の姿を描くため 再エネ転換の先進国ドイツ・デンマークを視察

重要目標5の「原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組めます。」の実現には、めざす社会の姿を具体的に描いていく必要があります。そのため、2023年9月ドイツ・デンマークへ視察に赴きました。メンバーは組合員10名と事務局のほか、提携生産者、エネルギー政策を専門とする大学教授や専門家総勢20名。2か国のエネルギー政策のあり方、省エネや地域熱供給、再エネのプラントなど多くの事例を視察しました。どの視察先でも一貫してその取り組みの背景には、エネルギーを自分ごととしてとらえ、自ら問題解決に参画する市民の姿があることがうかがえました。これは、生活クラブの活動に通じるもの。重要目標5を成しとげた国や地域があることを確認し、今回の視察を目標実現に役立てていきます。

デンマーク 太陽集熱フィールド デンマーク 地域熱供給の燃料となる麦わら
ドイツ ヴッパータール研究所で最新の政策を学ぶ デンマーク 洋上風力基地。後ろにあるのは風車の羽

生活クラブでんきの再生可能エネルギー発電所

太陽光 風力 小水力 バイオマス

69ヶ所
発電所の数は2024年4月末現在

2022年稼働 2023年稼働

野辺山営農型太陽光発電(長野県)
長野県の八ヶ岳山麓にある野辺山に、営農型の太陽光発電所を建設。野辺山営農ソーラー株式会社が出資する事業に生活クラブ連合会が参画しています

さがみこファームソーラーシェアリング発電所「SO-LA-MI」
東京、神奈川の生活クラブで寄付を募り(株)さがみこファームとともに建設。竣工式では組合員も一緒にワイン用のぶどうを植樹しました

※バイオマスは、(株)生活クラブエナジーが提携する事業者から購入して供給しています。
※各発電所のアイコンは都道府県ごとに表示。

※上記、調達電源の数値は、生活クラブ事業所および関連施設(高圧)と生活クラブ組合員(低圧)への供給実績に基づき算出しています。最新の調達電源比率は(株)生活クラブエナジーの公式サイトで確認できます。※(株)生活クラブエナジーがこの電気を調達する費用の一部は、(株)生活クラブエナジー以外の利用者を含め、電気をご利用の皆様から負担された再生可能エネルギーに関する賦課金によって賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電なども含まれた全国平均のCO₂排出量を持った電気として扱われます。※その他インバランス等には、旧一般電気事業者からインバランス(補給)供給を受けた電気と他社から調達している電気の一部で発電所が特定できないものについては「その他」の取扱いとしています。2022年度のCO₂排出係数(調整後排出係数)は0.465です。(単位:kg-CO₂/kWh)



重要目標

6

誰もが個性を活かしながら、安心して生活を営める地域と社会をつくりまします。



生まれてから生涯を終えるまで安心して生活を営むため、地域に必要な事業および市民活動の環境整備と資源創出をすすめます。

生涯を通じて地域の中で安心して生きられる社会をつくる

■さまざまな人を支える地域活動と事業

あらゆる世代や状況下の人たちが元気で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、居場所づくりや役割づくりをすすめています。



居場所に取り組む地域(自治体*)数
143
2022年度実績

大阪府枚方(ひらかた)市の子育て広場「ひらひら」を訪れた親子

■介護予防への取り組みと健康長寿の活動

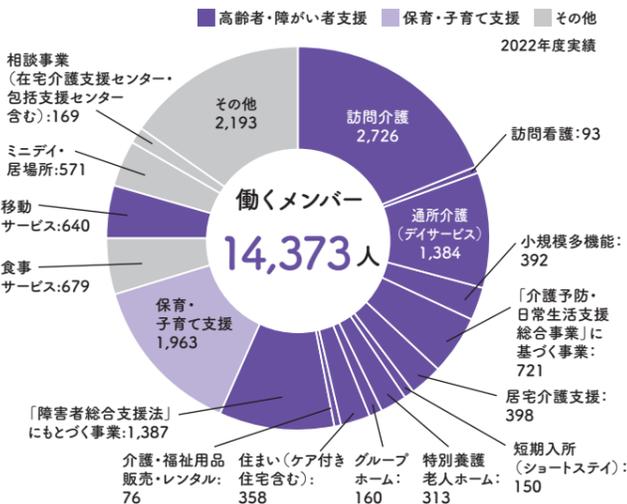
健康づくりの支援として、手軽な運動方法や生活習慣の改善につながる情報をWEBサイトで定期的に発信。また「美食百彩」消費材と連動した、ピオサポアクティブシニア講座*の開催を支援しています。



介護予防・健康維持の活動に取り組む地域(自治体*)数
32
2022年度実績

「ピオサポ アクティブシニア(美食百彩)講座「体操」編」に集まった参加者たち(生活クラブ京都エル・コップ)

■生活クラブグループの福祉事業で働くメンバー



■防災減災の活動と災害時の地域のたすけあい

防災、減災に対する意識を高め、常日頃から備えられるよう、防災ワークショップを開催。また、こくみん共済coop(全労済)が主催する防災セミナーと連携した、ライフプラン講座を共同開催しています。



ライフプラン講座防災ワークショップの開催数
23講座

参加人数
261人
2023年度実績

ライフプラン講座の様子

※自治体とは、基礎自治体である「市区町村」。

重要目標

7

貧困と孤立を見過ごさず、自立に向けて寄り添い、支え合い、多様な居場所と働き方をつくりまします。



現代社会が生み出す貧困に目を向け、広がる格差と社会的弱者を孤立させる社会構造の変革をめざします。地域の連携により、セーフティーネットで守られ、価値のある存在として互いにつながりあえる社会をつくりまします。

誰も取り残すことなく、たすけあえるしくみをつくる

■社会的に不利な状況にある方へのサービスとケア

社会的に不利な状況にある人々が、衣食住に関するサービスやケアを身近に利用できるしくみをつくっています。その一環として、身近な困りごとから生活の維持に関わることなど様々な相談事業を行なっています。



相談窓口に取り組む地域(自治体*)数
8
2022年度実績

「認定NPO法人コミュニティケア街ねっと」(千葉県)での家計相談の様子

■食の再配分と食育の推進

消費材をつくる生産者が集まる「生活クラブ親生会」と連携し、生活クラブフードバンクの取組みを推進しています。食品の提供先はこども食堂、居場所運営団体など、さまざまに広がっています。



提供先団体数
7都県 **30**団体

生産者数
25団体

2022年度実績
組合員がボランティアで、食材の仕分け作業に取り組んでいます(フードバンク 神奈川)

■誰もが役割のある場づくり

社会的・心理的な性別、年齢、障がいなどにかかわらず、互いに尊重し働きがいを感じられる仕事や職場を広げます。



就労支援に取り組む単協数
5単協
2022年度実績

生活クラブやまがたによる「就労支援」

■「生活クラブ共済ハグくみ」

消費材と同じように生活クラブの組合員が、自分たちで欲しいと思う保障を自分たちでつくりました。保障だけでなく、家事介護支援や保育支援や移動サービスなど地域の人たちで直接的にたすけあうケアサービスの展開も行なっています。

加入者数
49,532人
(2024年3月末時点)



生活クラブ共済イメージキャラクター「ハグみちゃん」

※自治体とは、基礎自治体である「市区町村」。

■組合員どうしのたすけあい「エコロ(共済)制度」

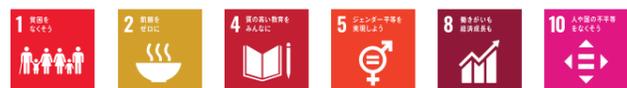
生活クラブ独自のたすけあいのしくみです。制度内容は各地の生活クラブによって異なりますが、組合員どうしが「お互いさま」の気持ちでたすけあうという趣旨は同じです。現在、14都道府県の生活クラブで実施されています。



※自治体とは、基礎自治体である「市区町村」。



* ピオサポアクティブシニア講座
生命力にあふれた健康な食生活をサポートする活動「ピオサポ」の一環で、シニアの食をテーマとする講座です。



重要目標

8

非戦と共生の立場を貫き、 平和で公正な社会を めざします。



戦争のない世界をめざし、世界中の市民や地域との多様な交流をすすめながら、社会的・経済的な発言力を発揮します。

おおぜいの声を集めみんなが生きやすい社会に

一人ひとりの意見を国に届ける

個人の力は小さくても、たくさん集まれば社会を変える力となります。生活クラブは2024年2月、脱原発、脱炭素と再生可能エネルギーへの転換を求める署名112,957筆を、経済産業大臣、環境大臣宛てに提出しました。生活クラブでは気候危機や原発(原子力発電)、資源の問題などを解決する対策の一つとして、再生可能エネルギー(以下、再エネ)の使用を推進しています。しかし、日本政府は「脱炭素

化社会の実現」を理由に原発推進政策へと転換。これに対し、「原発推進は気候危機の解決にはならない」と全国各地の生活クラブ組合員が署名活動を行ないました。また、署名提出に際し、衆議院議員第二会館で院内集会「脱原発・脱炭素と再生可能エネルギーへの転換への加速を求めます」も開催。対面とオンラインあわせて179名の組合員と、国会議員10名、国会議員秘書4名が参加しました。

■脱原発、脱炭素と再生可能エネルギーへの
エネルギー転換の加速を求める署名

112,957筆

2024年
2月



【署名の要望事項】

1. 脱原発、脱石炭火力を脱炭素政策の柱として早急を実現することを求めます
2. エネルギー基本計画を早急に改正し、2035年の再生可能エネルギー電力目標80%以上を求めます
3. 発電と送配電の所有権分離と再生可能エネルギーの優先接続・優先給電政策を求めます

国、世代、障がいなどの有無を超えてつながる

海外の市民と交流し相互理解を深める

経済的な指標に頼らず、多様な国や民族との相互理解を深めるために、さまざまな交流の機会をつくっています。



2023年11月、20回目となる「アジア姉妹会議・交流会」を東京にて開催。生活クラブの組合員の代表や事務局、韓国・台湾からの26人の参加者に加え、オンラインでも80人の参加者があり、総勢150人の大規模なイベントとなりました。

情報をより多くの人に届ける

生活クラブが発信する情報がより多くの人に届くように、連合会の公式WEBサイトでは多言語化をすすめ、複数言語でも閲覧できるよう対応しています。また、生活クラブのインターネット注文「eくらぶ」では、視覚に障がいのある方向けに音声読み上げソフトに対応した「eくらぶ文字だけサイト」も開始。注文操作を容易にできるようにしています。サイトは開発側と利用する側の双方で、視覚に障がいのある方に協力いただきました。



生活クラブ連合会公式WEBサイト<英語>



eくらぶ文字だけサイト

重要目標

9

ジェンダー平等と 多様な働き方を 実現します。



女性のエンパワーメントを強め、誰もが働きやすい職場づくりや社会参加をすすめます。

女性の社会的な発言や参画をすすめます

生活クラブに参加する人を増やし、 地域に必要な機能や働く場をつくる

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントが世界に大きな活力をもたらすとの考えが、国際的に浸透してきています。女性が中心である生活クラブの組合員を増やし、女性たちの声や力を大きくしていきます。また、「ワーカース・コレクティブ」など、地域に必要な機能や働き方、働く場を生み出していきます。

■生活クラブの仲間を増やし、声と力を大きくしていきます



4都県で展開する、生活クラブの消費材を買い取るお店「デポ」。生活クラブの組合員たちが主体となり共同経営を行なう「ワーカース・コレクティブ」のスタイルをとっています。

多様性を尊重する、働きやすい職場の実現

性別、年齢、障がいの有無、国籍などに 関わらず、誰もが働きやすい職場づくり

性別や年齢、ライフスタイル、価値観などにかかわらず個を尊重し、認めあい、良いところを活かす職場づくりをすすめます。ダイバーシティへの理解の醸成や、仕事と育児・介護の両立支援、ICTを活用した多様な働き方を実現していきます。

■連合会での女性職員の採用、管理職への登用をさらにすすめます



日本の企業における役員・管理職に占める女性の割合

就業者に占める女性の割合は、2023年は45.1%。しかし管理的職業従事者に占める女性の割合は、2023年は13.2%です。近年着実に上昇しているものの、諸外国と比べると依然として際立って低い水準となっています。(※出典・厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課「雇用の分野における女性活躍推進に係る現状及び課題」)



生活クラブでは性別や年齢、障がいの有無などにかかわらず、すべての職員が働きやすい職場をめざし取り組んでいます。

10 重要目標 他団体や行政と連携し、新たな環境保全活動に取り組みます。



他団体や行政とのパートナーシップを構築し、海洋プラスチック汚染対策やローカルSDGs*の取組みを推進します。

地域の人々とすすめる持続可能な社会づくり

提携産地とともに作るローカルSDGs

生活クラブの主要な提携産地である庄内・遊佐、栃木、長野、紀伊半島で、ローカルSDGsの取組みを通じ、協同組合や行政、他セクター間との連携をすすめていきます。たとえば庄内では、酒田市、庄内みどり農業協同組合、生活協同組合庄内親生会と、2021年12月に「包括連携に関する協定」を締結。協定には、環境保全に関する項目もあります。酒田市など庄内地域の自治体と一緒に、「食(Food)」、「エネルギー(Energy)」、「福祉(Care)」を可能な限り庄内地域で自給し、連携しながら持続可能な社会づくりをめざす「庄内FEC自給ネットワーク構想」を推進しています。

第10回環境省グッドライフアワード
環境大臣賞 優秀賞受賞!

グッドライフアワードは、環境省が提唱する地域循環共生圏の理念を具現化する取組みを表彰しその活動を応援するためのプロジェクトです。2022年度の第10回の環境大臣賞において、生活クラブと山形県庄内地域のローカルSDGsプロジェクトが優秀賞を受賞しました。

産地への移住と地域との交流をかなえる拠点「TOCHiTO」始動

庄内地域ではさらにローカルSDGsをすすめる、山形県酒田市と連携して、2023年6月に「TOCHiTO(とちと)」をオープンしました。生活クラブ組合員を中心とした移住者の居住拠点であるとともに、地域の交流やまちづくりの拠点となる複合施設です。敷地内には、移住者の居住棟、交流棟や憩いの広場のほか、地元企業や居住者が利用できるシェアオフィスやコワーキングスペースも併設。移住した人たちはすでに現地で働いたりボランティアに参加したりするなど、さまざまな活動に取り組み、地域になじんでいます。



左が交流棟「COTO」、右が居住棟「TOCO」

みんなの力をあわせて海や森林などの環境を守る

他団体と協力してクリーンアップ活動を推進

生活クラブは、2030年に向けて他団体や行政と連携しながら、新たな環境保全活動に取り組みます。環境問題などの大規模な課題を、他団体や行政などの組織の垣根を越えて、おおぜいの人と協力することで解決をめざしています。海洋プラスチック・マイクロプラスチック*の流出を水際で防ぐため、他団体と一緒に「クリーンアップ活動」もそのひとつです。

*海洋プラスチック…何らかの要因で河川などを通じ海へ流れ出たプラスチック。マイクロプラスチック…プラスチックが海をただよううちに砕け、5ミリ以下に破片化したもの。



兵庫県西宮市の甲子園浜海浜公園で行なわれたクリーンアップ活動

11 重要目標 情報開示と自主管理を基本とし、自ら考え、決め、実行します。



組合員主権に基づく組織運営を基軸として、SDGs達成に主体的に取り組みます。SDGsを超える取組方針についても、自主的な目標を定め、実行していきます。

独自の基準による管理と点検をすすめる

生活クラブの自主基準

健康で安心して暮らせる社会をめざし、生活クラブでは「消費材10原則*」に基づく「自主基準」を設けています。その範囲は農業・漁業・畜産・加工食品・生活用品・容器包装、エネルギー、そしてすべての食品消費材に共通する放射能の分野にわたります。自主基準は消費材をつくる際に守るべき規格と、未来のあるべき姿に消費材を導くためのガイドラインで構成されています。



生活クラブならではの消費材Step Up点検

組合員が消費材の生産現場に赴いて、製造工程などを確認する活動です。対面を基本としていますが、近年はオンラインも活用しています。組合員の率直な質問によって生産者は製造面の見直しや新たな発見をするなど、組合員と生産者の意見をもとに改良を重ねることで、消費材はブラッシュアップされています。



「真あじ開き」の生産者の元を訪れ、対話しながら点検を行なった生活クラブ神奈川の組合員

2023年度の実績と2030年目標



2023年度の実績と2030年目標



放射能検査活動

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから、放射能による食品の汚染状況を全体的に把握するために検査を開始。徐々に検査装置の数を増やし、自主基準値をより厳しい数値に更新してきました。また、検査実績をもとにリスクが少ないと分かった品目の検査を減らし、検査すべき品目の検査頻度を増やしています。



ゲルマニウム半導体検出器



放射能検査数



* ローカルSDGs
それぞれの地域が持つ再生可能なさまざまな資源(自然、物質、人材、資金等)を循環させて有効に利用し、地域と地域が補完しあうことで、お互いの活力を最大に生かし、サステイナブルな自立・分散型の社会を形成するという構想。

* 消費材10原則
経済と社会に関する5つの原則と、環境に関する3つの原則、そして共生と自治に関する2つの原則で構成されています。消費材や取組みの一つひとつに反映され、「健康で安心な社会」の実現の基礎となっています。

重要目標11は、組合員活動についてまとめた、SDGsにとどまらない生活クラブ独自の目標です。

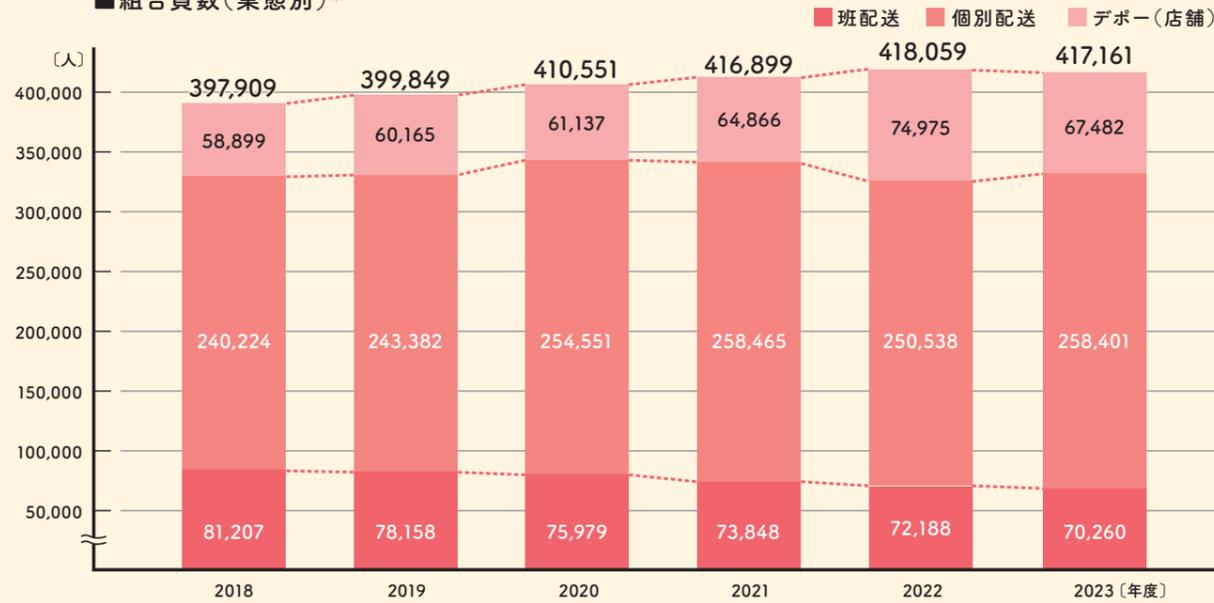
DATA 数字で見る動向と推移

生活クラブグループの全体像が見えるデータをまとめました。

2023年度の共同購入の利用者数・事業高・出資金の推移と、2022年度の福祉事業の事業高、共済制度の加入者数推移を掲載しています。

[DATA 1 数字で見る共同購入事業の動向と推移]

■組合員数(業態別)*



■供給高(業態別)*



■出資金推移



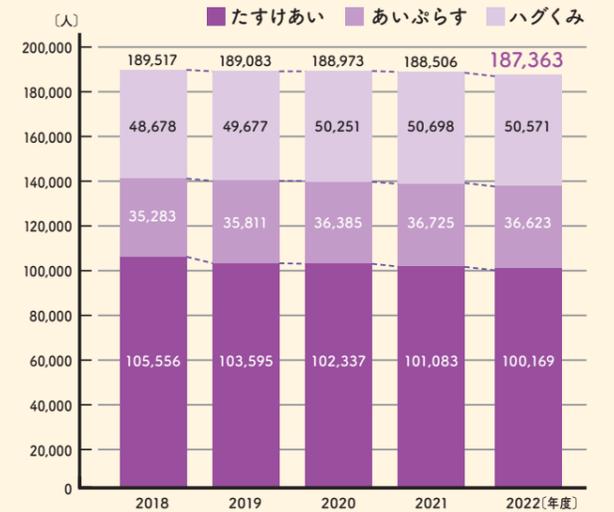
*各年度の合計値には、班配送・個別配送・デポー(店舗)以外の組合員数、供給高も含まれています。

[DATA 2 2022年度生活クラブグループの福祉事業と共済制度のひろがり]

■生活クラブグループ福祉事業の推移



■共済制度への加入者数



生活クラブ組合員が注文した消費材を 食の支援が必要な人に届ける「おふくわけ」



長引く経済の低迷などにより、毎日の食事を満足にとることができず困っている人が増えています。生活クラブは組合員と生産者とともに、フードバンクの活動を地域ごとに継続。さらに新たな支援「おふくわけ」をスタートしました。

一般的なフードバンクの活動では、農家の規格外品や食品製造企業の未利用品などの食品ロスが有効活用されています。一方、生活クラブでは、組合員の注文にもとづき生産者が計画を立てて生産し、組合員が利用する「予約共同購入」のため、食品ロスはほとんど発生しません。そこで「おふくわけ」では、組合員が注文することでフードバンクの支援に参加できるようにしました。この取組みによって、地域内での支援の輪をさらに広がっていきます。

「おふくわけ」の流れ



2023年度 生活クラブの活動を 振り返る

東京の組合員が開発 こむすびちゃん

提携産地の共同開発米をもっとたくさんの人に食べてもらおうと、生活クラブ東京の組合員が2年の歳月をかけ、さまざまな意見を生かしたおにぎり「こむすびちゃん」を開発



まると栃木・ 生産者を訪ねる旅

2015年から毎年秋に開催してきた、栃木県内の提携生産者と組合員との交流会を3年ぶりに開催。牛乳と飼料用米の産地を見学



野辺山 営農ソーラー

ソーラーシェアリング発電所の見学会と落成式を開催。テーブルカットの代わりに、栽培予定のほうれん草を収穫

長野の組合員が開発 これ好き!ソーセージ

「これ好き!スライスソーセージ」「これ好き!ブロックソーセージ」は、生活クラブ長野の組合員が提携生産者とともにどんな加工肉が食べたいか話しあい、試食を重ねて開発



食料・農業・農村基本法改正に伴う 合同学習会と意見交換会

「国内農業を守り、食料自給率向上に向けて!」の合言葉を掲げ、有識者を招いての学習会や意見交換会を開催し、国に提言を提出



組合員拡大活動 交流集会

各地域の生活クラブ同士で組合員拡大活動を学びあう、組合員参加の場「地域にひろげる生活クラブ」を開催。6つの地域の代表が実践事例を報告



組合員と力を合わせ、目標の達成をめざします

村上 彰一 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長

2023年度は一部の鶏卵農場で鳥インフルエンザの発生などがありましたが、鶏卵や鶏肉などの国産鶏種の取組みは102%を達成*しました。これも生産者の協力と組合員の結集力によるものです。畜産飼料の自給率も2022年度に43%と目標を大きく上回りました。飼料用米だけでなく、子実トウモロコシ生産の成果が表れています。また、生活クラブでんきの再生可能エネルギー（以下、再エネ）比率は90%超となり、発電所も69ヶ所に増え今も数ヶ所で建設中。契約数は2万件に迫っています。相次ぐ営農型太陽光発電所の建設は、農業と再エネの親和性の高さを示すもの。子育て広場や居場所づくりに取り組む地域は143地域（自治体）と、組合員活動の大きなテーマになってきています。

世界各地の戦争で国際情勢が不安定となり、円安も続いています。海外に依存していた日本の食料とエネルギーについて、このままでは大変だと多くの人が気づきました。しかし食料分野では高齢化などで離農がすすみ、この20年で約100万人もの農業従事者が減少。耕作放棄地も増える一方です。私たちは食料とエネルギーの自給、自治を実現するため、何としても日本の一次産業を守り抜きます。気候危機による自然災害も頻発しています。再エネの拡大や、海や陸の生態系を守る活動の継続、災害に備えた組合員同士の常日頃からの関係強化が必要です。地域で組合員がつながることは、いのちを守ること他にないという理解を広めていきます。

*2019年度比

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは?

世界では、格差と貧困、人口増加、生態系を維持できないほどの大量生産と消費、気候危機など、さまざまな問題が立ちはだかっています。

SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、これらの問題を2030年までに解決することをめざした、世界共通の目標です。先進国も途上国も区別なく「誰ひとり取り残さない」という理念のもと、一人ひとりが自分ごととして捉え、行動することが求められています。



SDGsのいまを考えるレポート

生活クラブは、SDGsの理念に先んじた、かつSDGsにとどまらない独自の実践をともなった活動を行ってきました。これをふまえ、「生活クラブ2030行動宣言」ではさらに推進すべき活動や、より先駆的な取組みを掲げています。一方で、日本ではSDGsの取組みにかかわる新たな考え方も浸透してきています。

自分らしく生きるための「ウェルビーイング」

近年、注目を集めているのが「ウェルビーイング(Well-being)」という言葉。最初に明記されたのは1948年発効のWHO(世界保健機関)憲章で、「身体的、精神的、社会的に良好な状態であること」とされています。日本では働き方改革や健康促進などのキーワードとして幅広い分野で用いられることも多く、さらに政策に活用しようとする動きもあります。

ウェルビーイングはSDGsの目標3,5,8,10などと深い関わりがありますが、17の目標を達成した先にあるものとして、今後非常に重要な概念になってくると考えられています。国際機関や企業では「SWG(Sustainable Well-being Goals)」=「みんなで持続可能なウェルビーイングの状態を目指す」という目標も提唱され始めています。

生活クラブのしくみについて

生活クラブは生協です。営利を第一の目的とする一般の企業とは異なり、
組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っています。

みんなで「出資」

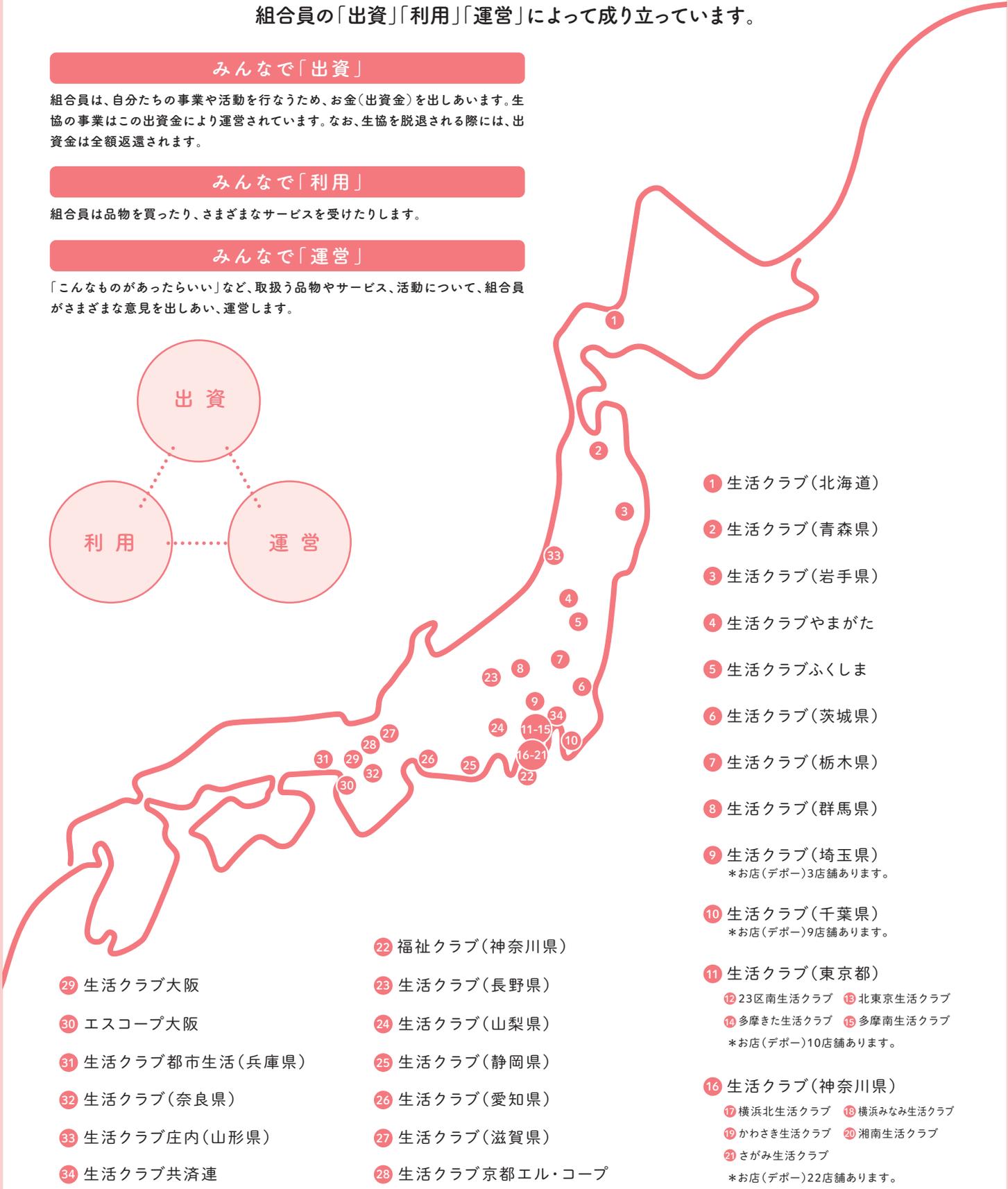
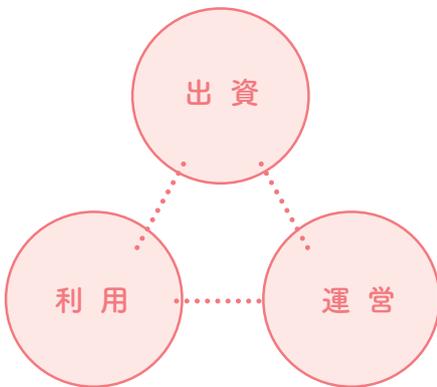
組合員は、自分たちの事業や活動を行なうため、お金(出資金)を出しあいます。生協の事業はこの出資金により運営されています。なお、生協を脱退される際には、出資金は全額返還されます。

みんなで「利用」

組合員は品物を買ったり、さまざまなサービスを受けたりします。

みんなで「運営」

「こんなものがあたらしい」など、取扱う品物やサービス、活動について、組合員がさまざまな意見を出しあい、運営します。



1 生活クラブ(北海道)

2 生活クラブ(青森県)

3 生活クラブ(岩手県)

4 生活クラブやまがた

5 生活クラブふくしま

6 生活クラブ(茨城県)

7 生活クラブ(栃木県)

8 生活クラブ(群馬県)

9 生活クラブ(埼玉県)
*お店(デポー)3店舗あります。

10 生活クラブ(千葉県)
*お店(デポー)9店舗あります。

11 生活クラブ(東京都)

12 23区南生活クラブ 13 北東京生活クラブ

14 多摩きた生活クラブ 15 多摩南生活クラブ

*お店(デポー)10店舗あります。

16 生活クラブ(神奈川県)

17 横浜北生活クラブ 18 横浜みなみ生活クラブ

19 かわさき生活クラブ 20 湘南生活クラブ

21 さがみ生活クラブ

*お店(デポー)22店舗あります。

22 福祉クラブ(神奈川県)

23 生活クラブ(長野県)

24 生活クラブ(山梨県)

25 生活クラブ(静岡県)

26 生活クラブ(愛知県)

27 生活クラブ(滋賀県)

28 生活クラブ京都エル・コープ

29 生活クラブ大阪

30 エスコープ大阪

31 生活クラブ都市生活(兵庫県)

32 生活クラブ(奈良県)

33 生活クラブ庄内(山形県)

34 生活クラブ共済連